

## 指定管理者評価シート

<b>事業名</b>	札幌市みかほ整肢園	<b>所管課(電話番号)</b>	保健福祉局保健福祉部障がい福祉課(211-2938)
------------	-----------	------------------	----------------------------

### I 基本情報

<b>1 施設の概要</b>			
<b>名称</b>	札幌市みかほ整肢園	<b>所在地</b>	札幌市東区北17条東5丁目2-1
<b>開設時期</b>	昭和46年4月1日	<b>延床面積</b>	1,015.53㎡(総面積1,938.75㎡)
<b>目的</b>	肢体不自由のある就学していない利用児とその保護者を対象に、一人ひとりの状況にあわせた早期療育の場として心身の発達を促し、利用児及び保護者の意思と人格を尊重し、当事者の立場に立った適切な療育を確保することを目的とする。		
<b>事業概要</b>	医療型児童発達支援センター、保育所等訪問支援事業、相談支援事業、居宅訪問型児童発達支援事業、日中一時支援事業、放課後等デイサービスの運営		
<b>主要施設</b>	訓練室、保育室、診察室、心理判定室、言語療法室、工作室、プール、トイレ、調理室、屋外訓練場		
<b>2 指定管理者</b>			
<b>名称</b>	社会福祉法人 麦の子会		
<b>指定期間</b>	令和2年(2020年)4月1日～令和7年(2025年)3月31日		
<b>募集方法</b>	公募		
<b>指定単位</b>	施設数: 1 複数施設を一括指定の場合、その理由:		
<b>業務の範囲</b>	施設維持管理業務、施設事業計画及び実施業務、施設利用承認等業務		
<b>3 評価単位</b>	施設数: 1 複数施設を一括評価の場合、その理由:		

### II 令和5年度管理業務等の検証

項目	実施状況	指定管理者の自己評価	所管局の評価
1 業務の要求水準達成度			

			<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4"> <p>・基本方針に則り、適正に管理運営がなされている。</p> <p>・緊急時対応用に職員が携帯電話を所持して開所日以外の日でも保護者からの相談に乗れる体制を作っていることは高く評価できる。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	<p>・基本方針に則り、適正に管理運営がなされている。</p> <p>・緊急時対応用に職員が携帯電話を所持して開所日以外の日でも保護者からの相談に乗れる体制を作っていることは高く評価できる。</p>			
A	B	C	D								
<p>・基本方針に則り、適正に管理運営がなされている。</p> <p>・緊急時対応用に職員が携帯電話を所持して開所日以外の日でも保護者からの相談に乗れる体制を作っていることは高く評価できる。</p>											
<p>(1)統括管理業務</p>	<p>▽ 管理運営に係る基本方針の策定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・設置目的である「肢体不自由のある就学していない利用児とその保護者を対象に、一人ひとりの状況にあわせた早期療育の場として心身の発達を促し、利用児及び保護者の意思と人格を尊重し、当事者の立場に立った適切な療育を確保することを目的」としている。</li> <li>・Mission「共に生きる」困り感のある人たちを救い、ともに生きるために存在しているという法人のミッションのもとに障害のある人もない人も安心して暮らすことが出来る地域づくりを行うということを念頭に置いて支援を行っている。</li> <li>法人の職員倫理綱領、職務遂行上の留意点、子どもや職員の安全を守るためのルールを明記し、公平公正な管理運営を行った。</li> <li>・虐待防止委員会を法人全体で月に1回開催した。また虐待防止に関する責任者を配置した。週1回のアンガーマネジメントの練習や助けを求める・助けを受け入れる練習を行い、日頃からチームで動くことを意識できるように取り組んだ。</li> </ul> <p>▽ 平等利用に係る方針等の策定と取組実績</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・札幌市みかほ整肢園を利用や見学希望する方が公平公正に利用できるように見学を随時受け入れ対応した。また、関係機関の方から見学希望があった場合にも感染対策を取り受け入れを行った。</li> <li>・保健センター、相談室、病院等から見学や受け入れの問い合わせが多かったので随時電話での相談や見学などの対応を行った。また、必要に応じて関係機関と連携を図った。</li> </ul> <p>▽ 地球温暖化対策及び環境配慮の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電気、水道、油、ガス等の使用に当たっては、極力節約に努めた。</li> <li>・職員研修として環境マネジメント研修を行った。ごみの分別等の張り紙を掲示した。また、ゴミの減量のため職員の私物ごみは持ち帰り、ペットボトルや段ボールはリサイクル業者に搬出等努めた。</li> </ul> <p>▽ 管理運営組織の確立(責任者の配置、組織整備、従事者の確保・配置、人材育成)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法人の組織図、職務、管理者、指揮命令系統を明確にし、緊急時の連絡体制を確定した。また、各職種が職務記述書に基づいた業務を行い、役割分担や責任を明確にした。</li> <li>・当初の研修計画に基づき職員研修を実施した。また、保育、リハビリ職員など各職種ごとの勉強会や研修会、年代別の研修も計画的に行った。今年も年2回リハビリ職員向けのコンサルテーションもを行い、専門職として学ぶ機会を設けた。外部研修参加後は翌日の打ち合わせの中で職員に周知をしたり、伝達研修等を行った。</li> <li>・人材育成としてグループスーパービジョンを週1回、個別スーパービジョンを月に1回(新人職員は週1回)行った。また、毎日支援を振り返り、より良い支援を行うためにはどうしたらよいか話す時間を設けながら質の向上と人材育成に努めた。</li> </ul> <p>▽ 管理水準の維持向上に向けた取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本方針に沿った運営を心掛け、理念の実践化に努めた。また個別支援計画に基づき、1人1人のニーズに沿った支援を提供できるように各職種で情報共有しながら支援の方向性を統一して支援を行えるよう努めた。</li> <li>・法人内の居宅介護支援事業所や短期入所などの事業所間で情報共有し、連携しながら支援を行った。</li> <li>・緊急時対応として職員が事業所携帯を所持し、開所日以外の日でも保護者からの相談にのれるような体制作りを行った。</li> <li>・週1回の法人全体打ち合わせでMission, Vision, Value, 倫理綱領などの読み合わせを行い、公平公正な支援と平等利用を図ることができた。</li> <li>・消灯やエアコンの操作をこまめに行い省エネに努めた。が、建物の老朽化もあり、冬の光熱費の節約が難しい状況になった。</li> <li>・札幌市環境マネジメントシステムに基づき適切な管理を行うことが出来た</li> <li>・年間の研修計画に基づいて研修に参加することが出来た。また、法人内研修だけではなくオンラインでの外部研修にも積極的に参加し、専門職としてのスキルアップ、意識向上に努めた。</li> <li>・法人全体で人事考課制度を実施し、それぞれが期待されていることの把握、振り返り、目標立てを定期的に面談を実施し、人材育成に努めた。</li> </ul>									

<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者支援の質の向上、情報共有、事故防止のため朝の打ち合わせや情報シート等で情報共有した。</li> <li>・個別支援計画に基づいた支援を実施出来ているのか必要に応じて保育職員とリハビリ担当職員が会議を開いて確認し、情報を共有した。</li> <li>・活動時にはリーダー・サブリーダー・アシストなど担当や役割を決め、1人1人個別の目標に合わせて集団の保育活動が行われているのか日々計画を立てながら振り返りを行った。また定期的に外部のコンサルテーションを受け、自分たちの実践を振り返りながら学びを深めた。</li> <li>・ヒヤリハットがあった場合には原因・今後の対策を明確にした。また、同じ事故がないよう朝の打合せで周知し、職員間で情報を共有した。</li> </ul> <p>▽ 第三者に対する委託業務等の管理(業務の適正確保、受託者への適切監督、履行確認)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・建物の警備、エレベーターの保守点検、消防設備点検・業務を札幌市が第三者に対して委託して行った。</li> <li>・自動ドアの設備点検やプールの水質検査・点検、駐車場の除排雪、クリーニング等を委託し、適切に業務が遂行されていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用児の把握については日々の打ち合わせの中で情報を共有した。</li> <li>・週1回のクラス会議やケースカンファレンス会議を通して共通の認識の基で一貫した支援を行えるように努めた。パート職員に対しても別途打ち合わせ時間を設定し、情報共有に努めた。</li> <li>・送迎職員は出発前に安全マニュアルを読み合わせし、事故防止に努めた。送迎時には座席チェック表を用いて、子どもが座った場所を運転手・添乗が確認し、降車後は事務員等他の職員が子どもが車に残っていないか点検を行った。</li> </ul> <p>・今後も継続した取り組みを実施していく。</p>
---	---

▽ 札幌市及び関係機関との連絡調整(運営協議会等の開催)

開催回	協議・報告内容
第1回	目的、みかほ整肢園が目指す療育、行事予定、自主事業の報告
第2回	目的、業務報告、3ヶ月の利用状況と取り組み状況、活動報告
第3回	目的、業務報告、3ヶ月の利用状況と取り組み状況、活動報告
第4回	目的、業務報告、4ヶ月の利用状況と取り組み状況、活動報告、2024年度の計
<協議会メンバー> 札幌市障がい福祉課 調整担当係長、運営指導係長・担当 子ども発達支援総合センター地域支援課長 北光まちづくりセンター所長 北光連合町内会会長	

・運営状況や業務報告、活動報告を行い、感想や意見等を反映しながらより良い運営が出来た。

▽ 財務(資金管理、現金の適正管理)

・現金等の取扱いについては、現金取扱要綱を整備しており、出納員及び分任出納員による一元管理を行っている。また、複数職員でのチェックを行うことで、事故防止に務めた。現金等の取扱いについては、物品購入は小口現金で対応することにより出納管理がスムーズに進んだ。

・小口現金を活用することで、出納管理しやすくなった。

▽ 要望・苦情対応

・利用者からの要望・苦情については法人内で第三者委員を設けるなど体制を整備している。また園内には苦情受付箱や苦情受付担当を配置し、保護者から要望・苦情を受けた場合には苦情対応マニュアルに沿って対応し、改善を行っている。職員には職員手帳に記載して周知している。

・苦情等の申し立てはなかった。今後も保護者からの要望を確認し、適正な支援に努める。

・利用者や家族からの要望に関しては、個別支援計画をもとにした個別懇談会を実施し、支援の内容等も家族とともに確認しながら行った。

▽ 記録・モニタリング・報告・評価(記録、セルフモニタリングの実施、事業報告、札幌市の検査等への対応、自己評価の実施)

・札幌市への月次報告書を行っている。

・利用者の状況について保育職員、リハビリ職員、看護師等で情報を共有することで統一した支援を行うことが出来た。

・個別支援計画の作成については利用者のニーズや発達段階を把握し、保護者との面談の中で必要な支援を行えるように各職種で会議を行った。また、発達に合わせて随時会議を行い、計画に沿った支援を行った。

・業務計画を作成し、それぞれの職種毎の計画を立て、年度末に総括して事業報告を作成した。

・札幌市による業務検査を年2回、財務検査を年1回受け、大きな指摘事項はなかった。

(2)労働関係法令遵守、雇用環境維持向上

▽ 労働関係法令遵守、雇用環境維持向上(事故の有無などの安全衛生面を含む)

・法人が作成している就業規則に則り、時間外・休日労働に関する協定書、給与からの法定外控除に関する協定書、就業規則、給与規程など必要な労働関係法令を整備した。

・今後も適正な取り組みを継続する。

・全職員が1年に1回の健康診断を必須とし、保育に携わる職員は6ヶ月に1回の腰痛検査を行った。また、ストレスチェックシートを用い、職場環境の維持向上に努めた。

・本人の希望に沿って有給休暇を取得できるように体制を整えた。

A B C D  
 ・仕様書に基づき、適正に施設の維持管理がなされている。

<p>(3)施設・設備等の維持管理業務</p>	<p>▽ 総合的事項(利用者の安全確保、市民サービス向上への配慮、連絡体制確保、保険加入)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の関りを意識し、常に安全を守ることに努めた。座位保持椅子の使用など行動制限の対象となる具体的な行為があった場合は個別支援計画に記載し、事前に保護者の同意を得て業務日誌に記載している。継続の際にも必要性を定期的に身体拘束的成果委員会やクラス会議を行い検討をしている。</li> <li>・法人の感染防止委員会に月1回参加した。また、感染症予防や対策のため手順書を作成し、利用者や職員の健康管理や安全に気を付けた。</li> <li>・緊急時対応マニュアル(火災、震災、衛生、感染等)を作成し、啓発を行っている。また、緊急時連絡体制の連絡網も作成した。</li> <li>・救急救命法の講習も実施し、AEDの使用方法について外部講師を招いて研修を行った。</li> <li>・防犯対策として玄関の鍵は施錠し、モニターで確認をしてから開錠している。また、不審者対応マニュアルを作成し、不審者対応の研修を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1人1人の障がい特性に合わせた関りを意識し、座位保持椅子の使用など行動制限の対象となる行為がある場合は職員間で共通対応した。</li> <li>・地震の教訓から災害時の非常食などの確認を行った。今後も緊急事態を想定した連絡網での訓練の実施を行いたい。</li> <li>・各マニュアルは必要に応じて適宜見直しを図った。</li> <li>・今後も継続した取り組みを実施していく。</li> </ul>	<table border="1"> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> <tr> <td colspan="4"> <p>・仕様書に基づき、適正に施設の維持管理がなされている。</p> </td> </tr> </table>	A	B	C	D	<p>・仕様書に基づき、適正に施設の維持管理がなされている。</p>			
	A	B	C	D							
<p>・仕様書に基づき、適正に施設の維持管理がなされている。</p>											
<p>▽ 施設・設備等の維持管理(清掃、警備、保守点検、修繕、備品管理、駐車場管理、緑地管理等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常清掃では毎朝打ち合わせの前と退勤前に担当箇所を決めて清掃を行った。おもちゃや手の触れる所は使用後と1日2回消毒を行った。また、年2回大掃除を計画的に実施した。</li> <li>・施設の劣化や破損等を早期に発見し、措置するために日常的に点検をを実施した。</li> <li>・計画清掃では届出書を作成し、園庭管理として芝生草刈り・水まき等計画的に実施した。</li> <li>・建物の警備はセコムが行っている。また、同一建物内にあるあかしあ学園と連絡を取り合いながら建物の施錠や開錠を行った。</li> </ul> <p>▽ 防災</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災計画を策定し、月1回防災訓練を実施した。また、年2回同一建物にあるあかしあ学園と合同避難訓練を実施した。非常災害時のための発電機の設置や物資の更新も行った。</li> <li>・防火管理責任者を選出して防災管理の徹底を図った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕様書に基いて施設の設備や維持管理を行った。今後も継続した取り組みを実施していく。</li> <li>・今後もあかしあ学園と連携しながら、防災に対する取り組みを実施し、点検・管理を行う。</li> </ul>	<table border="1"> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> <tr> <td colspan="4"> <p>・仕様書に基いて施設の設備や維持管理を行った。今後も継続した取り組みを実施していく。</p> </td> </tr> </table>	A	B	C	D	<p>・仕様書に基いて施設の設備や維持管理を行った。今後も継続した取り組みを実施していく。</p>				
A	B	C	D								
<p>・仕様書に基いて施設の設備や維持管理を行った。今後も継続した取り組みを実施していく。</p>											
<p>(4)事業の計画・実施業務</p>	<p>▽ みかほ整肢園に関する学習機会の提供業務・実施業務・家族支援につ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リハビリ職員、看護師、栄養士等、専門職がテーマを決めて保護者向けの学習会を月1回程度実施した。また、年4回の子育て講座やペアレントトレーニングの学習の機会を設けた。</li> <li>・単独通園の受入も行っている。単独通園の回数が増えることで保護者のレスパイトにも繋がり、疲労軽減にも繋がった。</li> <li>・ドアツードアで送迎を行い、重症心身障害児のお子さんや医療的ケアが必要なお子さんが単独通園児には看護師が添乗を行った。</li> </ul> <p>▽ 医療型児童発達支援センターと児童発達支援センターに関する情報収集及び提供業務</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童発達支援センター会議の出席し、各センターとの情報共有を行った。感染対策を行いながら、児童発達支援事業所の研修を開催し、40事業所92名の方が参加した。</li> </ul> <p>▽ 町内会エリアセーフティー(地域安全)に関する市民の自主活動及び交流の支援業務</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町内会の集まりでみかほの取り組みの情報提供を行ったり、総会に出席した。</li> </ul> <p>▽ みかほ整肢園で大切にしていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門職が保護者向けに学習会の予定を組んで実施することが出来た。また、保護者の要望に合わせてその他に学習会の機会も設けた。</li> <li>・日常の活動を大切にしながら保育職員だけではなくリハビリ職員も活動にも入って協力しながら行事等を行った。楽しい活動や集団の中で大人や子ども同士の関りや遊びを通した楽しい活動を行うことが出来た。</li> <li>・家族支援として単独通園の受入や送迎を行った。今後も保護者のニーズに寄り添って支援を行っていく。</li> </ul>	<table border="1"> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> <tr> <td colspan="4"> <p>・保護者向け学習会やペアレントトレーニングによる学習を行っている点は評価できる。・家族支援として単独通園の受け入れや送迎を行っている点や、各利用者に合わせてきめ細かな対応を行う体制をとっていることは、特に高く評価できる。</p> </td> </tr> </table>	A	B	C	D	<p>・保護者向け学習会やペアレントトレーニングによる学習を行っている点は評価できる。・家族支援として単独通園の受け入れや送迎を行っている点や、各利用者に合わせてきめ細かな対応を行う体制をとっていることは、特に高く評価できる。</p>			
A	B	C	D								
<p>・保護者向け学習会やペアレントトレーニングによる学習を行っている点は評価できる。・家族支援として単独通園の受け入れや送迎を行っている点や、各利用者に合わせてきめ細かな対応を行う体制をとっていることは、特に高く評価できる。</p>											

・子ども時代を子どもらしく過ごせるように、生活の主人公となるように支援、応援するということを重点目標としている。

発達支援では「睡眠と覚醒」「食事」「作業」「遊び(ふれあい遊び、戸外遊び、制作遊び、リズムなど)」を大切にしている。日常生活の中で保育職員とリハビリ職員が協力して子どもが楽しめる遊びを1人1人に合わせて設定している。

生活発表会や運動会などの行事では重症心身障害児のお子さんも看護師やリハビリ職員と協力して発達に合わせて楽しめるように工夫した。また、年長児のお泊り会では10名の子どもが参加した。子ども気持ちを汲み取り職員が代弁することでまばたきで大人とコミュニケーションをするなどの表現もみられるようになったり、友だちや大人と関わることを楽しむことが増えるよい機会となった。

(5)施設利用に関する業務	▽ 利用件数等	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R4年度実績</th> <th>R5年度計画</th> <th>R5年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>延べ人数</td> <td>5951</td> <td>5880</td> <td>5809</td> </tr> <tr> <td>開所日数</td> <td>244</td> <td>245</td> <td>245</td> </tr> <tr> <td>人数/日</td> <td>24</td> <td>24</td> <td>23.5</td> </tr> <tr> <td>新入園児</td> <td>11</td> <td>20</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>退園児</td> <td>14</td> <td>—</td> <td>13</td> </tr> </tbody> </table>		R4年度実績	R5年度計画	R5年度実績	延べ人数	5951	5880	5809	開所日数	244	245	245	人数/日	24	24	23.5	新入園児	11	20	18	退園児	14	—	13	・令和5年度4月は54名の在園児だった。感染対策を行いながら、見学や体験などの希望を随時受け入れた。 ・利用率は80%を目指していたが、母子入院や体調不良等による入院で長期休みの方が多かったことや他事業所との併行通園が増えたこともあり59.3%だった。前年度に比べて2.9%下がったが、登録者数は前年度の同時期と比べると6名増加している。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ・新型コロナウイルス感染症の5類化後も6割の利用となっていることは仕様書の要求水準を下回っていると評価される。	A	B	C	D				
		R4年度実績	R5年度計画	R5年度実績																																
延べ人数	5951	5880	5809																																	
開所日数	244	245	245																																	
人数/日	24	24	23.5																																	
新入園児	11	20	18																																	
退園児	14	—	13																																	
A	B	C	D																																	
利用に関する相談業務 ・1年間で電話や来所での相談や見学等を含めると延べ40件の相談対応を行った。 ▽ 利用促進の取組 随時保護者や他事業所、保健センターなど様々な方から希望にあわせて見学の受け入れや施設の紹介を行った。	(6)付随業務	▽ 広報業務	・保護者に確認しながら活動を外部の方に向けて発信することが出来た。今後も継続して行っていく。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ・各種広報媒体を利用した活動は評価できる。	A	B	C	D																												
A	B	C	D																																	
▽ 引継ぎ業務 (指定管理期間のため該当しない)	2 自主事業その他		▽ 自主事業	・保護者のニーズに合わせて支援を行い、体調が悪かった母親が回復したり、兄弟の子どもの世話ができるようになった等生活が楽になり子育てに余裕が出てきたなどの声が聞かれた。働くお母さんも増加し、生活の安定に繋がった。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ・適正に事業を実施している。	A	B	C	D																											
A	B	C	D																																	
・日中一時支援事業の契約人数が40名であった。 ・令和3年度から放課後等デイサービスみかほを開始し、重症心身障害児のお子さんへ、個別および集団で療育を行い、心身の発達を促すとともに、一人ひとりの状況にあった生活の自立を支援していくことを目的としている。契約人数は10名であった。 ▽ 市内企業等の活用、福祉施策への配慮等 ・札幌市シルバー人材センターに除雪の依頼を行った。	3 利用者の満足度		▽ 利用者アンケートの結果	・回答者は56名、回収率は94%であった。・仕様書で80%以上の水準が求められている総合満足度は、前年度より6%上がり91%の評価をいただいた。・職員の接遇について92%の満足度をいただいた。・指定管理を受けて4年目に満足度が90%を超えていることは4年間の積み重ねで子どもを中心に家族とのつながりを大切にしてきた結果であると感謝する。・近隣保育園との交流を期待されているので来年度は保育園と繋がって交流できるように計画を立てて実施していく。・子どもたちが安心、安全で通ってこれるように保護者の方の意見を取り入れて父母の会にも協力していただき、共に子どもを育てて環境作りに努めていく。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ・要求水準を10%以上超える満足度であり、特に高く評価できる。	A	B	C	D																											
A	B	C	D																																	
<table border="1"> <tbody> <tr> <td>実施方法</td> <td>                             ・実施期間 令和6年1月～3月                              ・対象者 利用者59名                              ・回収率 94%                         </td> </tr> <tr> <td>結果概要</td> <td>                             ・総合的な満足度は目標80%に対し91%だった。                              「子どもは通園を楽しみにしているか」                              はいが82% どちらともいえないが14%                               「事業所の支援に満足しているか、当施設に総合的な満足をしているか」                              はいが91% どちらともいえないが8%                               「職員の接遇について満足しているか」                              はいが92% どちらともいえないが7%であった。                         </td> </tr> <tr> <td>利用者からの意見・要望とそ の対応</td> <td>                             ・いつも楽しそうに通園しています。                              ・みかほに行き、生活リズムが出来ました。行く時に笑顔みられるので楽しみにしているのだと思います。                              ・園に来ると機嫌が良くなって楽しそうにしています。                              ・たくさんの専門職の方に支えて頂いています。                              ・日頃から色々とお気にかけてくれて感謝しています。                              ・忙しい中でも子どもとはどんな時でも笑顔で接してくれて優しく声をかけてくれて感謝しています。                         </td> </tr> </tbody> </table>	実施方法	・実施期間 令和6年1月～3月 ・対象者 利用者59名 ・回収率 94%	結果概要	・総合的な満足度は目標80%に対し91%だった。 「子どもは通園を楽しみにしているか」 はいが82% どちらともいえないが14%  「事業所の支援に満足しているか、当施設に総合的な満足をしているか」 はいが91% どちらともいえないが8%  「職員の接遇について満足しているか」 はいが92% どちらともいえないが7%であった。	利用者からの意見・要望とそ の対応	・いつも楽しそうに通園しています。 ・みかほに行き、生活リズムが出来ました。行く時に笑顔みられるので楽しみにしているのだと思います。 ・園に来ると機嫌が良くなって楽しそうにしています。 ・たくさんの専門職の方に支えて頂いています。 ・日頃から色々とお気にかけてくれて感謝しています。 ・忙しい中でも子どもとはどんな時でも笑顔で接してくれて優しく声をかけてくれて感謝しています。																														
実施方法	・実施期間 令和6年1月～3月 ・対象者 利用者59名 ・回収率 94%																																			
結果概要	・総合的な満足度は目標80%に対し91%だった。 「子どもは通園を楽しみにしているか」 はいが82% どちらともいえないが14%  「事業所の支援に満足しているか、当施設に総合的な満足をしているか」 はいが91% どちらともいえないが8%  「職員の接遇について満足しているか」 はいが92% どちらともいえないが7%であった。																																			
利用者からの意見・要望とそ の対応	・いつも楽しそうに通園しています。 ・みかほに行き、生活リズムが出来ました。行く時に笑顔みられるので楽しみにしているのだと思います。 ・園に来ると機嫌が良くなって楽しそうにしています。 ・たくさんの専門職の方に支えて頂いています。 ・日頃から色々とお気にかけてくれて感謝しています。 ・忙しい中でも子どもとはどんな時でも笑顔で接してくれて優しく声をかけてくれて感謝しています。																																			

【意見】・直接的な交流はないが、近隣保育園の交流(お手紙など)が張り出されている。次年度は直接的な交流を期待します。

【対応】次年度は時期を見て交流を企画します。

【意見】・スペースは広いが、個人に合わせた歩行器具など必要なものも多く、すべて大きいのでスペースがいくらあっても足りないくらいだと思う。置かせてもらっている器具等、忘れていくけど使わないものや必要なさそうなものがある場合は職員から言いにくいとは思いますが、持ち帰りか寄付か声掛けしてみてもどうか。

【対応】使用していないものは職員から保護者の方に声を掛けて確認します。

4 収支状況

▽ 収支 (千円)			
項目	R5年度計画	R5年度決算	差(決算-計画)
収入	173,360	168,731	▲ 4,629
指定管理業務収入	137,210	134,618	▲ 2,592
指定管理費	72,540	72,540	0
利用料金	1,924	1,723	▲ 201
給付費	51,526	48,356	▲ 3,170
その他	11,220	11,999	779
自主事業収入	36,150	34,113	▲ 2,037
支出	171,501	182,631	11,130
指定管理業務支出	137,485	145,650	8,165
自主事業支出	34,016	36,981	2,965
収入-支出	1,859	▲ 13,900	▲ 15,759
利益還元	0	0	0
法人税等	0	0	0
純利益	1,859	▲ 13,900	▲ 15,759

▽ 説明

○指定管理業務収入ではその他収入、利用者増により障害児施設給付費は増加したが、一方で診療報酬や補助金収入が減少したことにより計画より2,592千円減となった。  
 ○R4年度よりも登録人数が55名から61名と6名増え、前年度よりも給付費収益が1,995千円増加となっている。  
 ○利用人数を増加させるために、ドアツードアや単独通園の受入体制を整えるために看護師や運転手などを増員したため人件費が8,000千円増加した。  
 ○消灯やエアコンの操作をこまめに行い省エネに努めたが、光熱費高騰により節約が難しい状況になり、電気代がR4年度よりも970千円増加した。  
 ○新型コロナウイルスが収束したことにより、職員研修のため講師に来ていただいたり、外部に出かけていく機会を増やしたために研修研究費が200千円増となった。  
 ○除雪費がR4年度より400千円増となった。

4年目の指定管理者として、コロナが収束したことにより人材育成や支援の充実及び安全管理に力を入れ利用者増に努めた。医療型児童発達支援センターは、一日の平均利用者が2022年度、24.4人から2023度は、23.5人に減少したが、給付費収入は1,995千円増加した。単独通所に伴い、送迎利用人数の増加により車両購入、安全管理や支援の充実の為看護師を増員したことや人材育成に力を入れたことや水道光熱費、食材費の高騰が要因となり、指定管理業務収支は▲11,032千円となった。  
 また、自主事業の放課後等デイサービスは昨年度より支援を充実や安全面を強化したことにより▲2,868千円の赤字となった。  
 令和5年度の決算は、▲13,900千円となったが重度の医療的ケアの子どもが単独で利用するようになり手厚い看護が必要になったために看護師を増員したことなどが一因になっている。  
 来年度も引き続き重度の医療的ケアの子どもの安心安全を守っていく。  
 2024年度はコロナの収束によりさらなる利用者増加、経営の安定が見込まれる。

A	B	C	D
<p>・事業所として収支は支出超過であり、前年度に比べ赤字幅が大きくなっている。            ・指定管理業務について利用者増に努めて前年度よりも収入が増えていることは評価できる。            ・事業所として3年連続で支出超過になったことは、事業継続のためには大きな懸念材料である。水道光熱費や食材費の高騰、人員配置増により人件費が計画より増えたこと、自主事業収入が計画比・前年度比ともに減少したこと、診療報酬や補助金収入が前年度よりも減少したことなど、収支改善について、多くの課題を抱えていると評価される。</p>			

<確認項目> ※評価項目ではありません。

▽ 安定経営能力の維持

・当法人は一体的に福祉サービスを提供しており、財政状況は安定している。

適 不適

・事業所単体としての収支は赤字となったが、法人全体としては安定した経営を保持して

▽ 個人情報保護条例、情報公開条例、行政手続条例、オンブズマン条例及び暴力団の排除の推進に関する条例への対応

・各条例の規定に則り、全て適切に対応した。

適 不適

・各条例を順守し、適正に対応している。

III 総合評価

【指定管理者の自己評価】

総合評価

次年度以降の重点取組事項

<p>令和2年度より札幌市みかほ整肢園は指定管理者制度を導入し、社会福祉法人妻の子会によるサービス提供、施設管理・運営を開始した。指定管理施設としての質の高いサービス提供体制を確保しつつ、さらに利用者のニーズに沿った柔軟な視点や工夫によるサービスの向上を目指していくことを優先して運営を行ってきた。</p> <p>○ 法人のミッション「共に生きる」子どもを育てるには、「村中の大人の知恵と力と愛と笑顔が必要です」を具現化できるように取り組んだ。 1人1人の子どもに合わせて保育職員とリハビリ担当職員、看護師等が連携し、子どもたちの発達に合わせてグループ活動や外活動を取り入れた。 今年度初めての取り組みとしては、家庭訪問週間を設けて家庭の様子を見に行ったり、感染症拡大防止のため実施していなかった歯科検診を行った。</p> <p>○ 職員研修として発達障害、自閉症、重症心身障害児、医療的ケア児、心理臨床、ペアレントトレーニング、職業人として高いレベルの働き方についてなどの様々な研修に参加した。それぞれ専門家より職種別専門研修に参加することで職員の資質の向上を図った。 また法人内で行われている新人、2年目、3年目などの年代別研修やサブアシスト・リーダー・シニアリーダー、マネージャー・シニアマネージャー、グループマネージャー以上、パート職員むけ研修などの階層別研修に参加した。</p> <p>○ 安全管理 法人内で起こったヒヤリハットや事故、また、全国の保育園や障害児施設での子どもの死亡事故から学び、事故が起きないように施設内の危険個所の点検や修繕を定期的に行った。 送迎管理ノートを改正し、パート運転手も含めて送迎時に行うことを手順として追加した。また、マニュアルを見直し、送迎時には送迎管理ノートの持参を徹底した。そして、送迎車両内で置き去りがないように、送迎終了後は運転手と添乗職員以外の職員が座席表に基づいて点検を行った。 保育場面でも戶外活動や活動の場面ごとにリーダーが人数確認を行い、事務所への報告を行った。</p> <p>○ 利用者の虐待防止・権利擁護の遵守 月1回法人で行っている権利擁護・虐待防止・身体拘束適正化委員会に参加した。また、職員1人1人の落ち着きプランを張り出し週1回アンガーマネジメントの練習や助けを求め・助けを受けられる練習をすることで職員同士助け合い、利用者への虐待防止につなげた。</p> <p>○ 家族支援として月1回のクラス懇談や専門職によるミニ講座、年4回の米島先生の子育て講座、年3回の親子発達支援のプログラム、ペアレントトレーニングの勉強会などを行った。リハスタッフによる勉強会で小児用福祉機器のミニ展示会を今年初めて行った。 年1回父親参観を行い、保育で行っている朝の会やふれあい遊び、親子遊びなどに参加する時間や懇談の時間を設けた。また、パパの会が結成され、夏まつりでは職員と協力しながら出し物を行った。</p> <p>○ 東区・北区の児童発達支援事業所や放課後等デイサービス、相談室、保育園等の事業所向けに札幌市児童発達支援研修会を行った。</p>	<p>○ 児童福祉法の改正により、医療型児童発達支援センターから福祉型児童発達支援センターに一元化された。児童発達支援センターとして未就学の肢体不自由児やその他の障がいのある子どもに対する身近な療育の場として支援を行う。 支援を行っていきにあたり、日々の保育と保護者への支援とともに、医師・リハスタッフによる機能訓練を行う。 新しい取り組みとしてリハスタッフと保育スタッフによる小集団活動を行う。内容として3～5人程度の小集団活動の中でリハスタッフと保育スタッフが個別の目標をもとに子どもの発達段階に合わせてコミュニケーションを高める遊びや楽しい遊びの中で立位歩行を高められるような集団活動に取り組む。 みかほ整肢園の重点目標として「子ども時代を子どもらしく過ごすことができるように、生活の主人公となって家族以外の大人や友達ともつながりをもてるように支援し、応援する」支援を行う。遊びを中心とした日々の暮らしの中で楽しい経験をたくさん積み、友達や大人と関わることを楽しめるような活動を設定する。また、遊びを通して、子どもが持っている力を最大限に発揮できるように保育を行い、意欲を引き出していく。 地域における中核的支援施設として、児童発達支援事業所等との連携による療育機能の質の向上を図る。 感染症予防のために行っていなかった地域の保育園との交流の場を設ける。 さらに、定員の20%を肢体不自由児以外の児童を受け入れを行う。</p> <p>○ 安全管理 安心・安全な生活や活動が送れるようにリスクマネジメントに留意する。アレルギー食、食形態等の受け渡し練習、ヒヤリハットの検証や対策立案等チームで共有を図る。定期的に園内点検や設備点検を行い、危険箇所がないか確認し、環境整備を行う。 送迎車両の置き去りがないように、送迎終了後は運転手と添乗以外の職員が座席表に基づいて点検を行う。活動時の場面ごとに人数確認を行って、事故の予防をする。</p> <p>○ 利用者の虐待防止・権利擁護の遵守 法人として倫理綱領を策定して職員手帳に記載して倫理綱領に元づいて職員が行動できるように進めていく。また、職員一人一人の落ち着きプランを張り出し週1回アンガーマネジメントの練習することで職員同士助け合い、利用者への虐待防止につなげていく。 やむを得ず身体拘束を行う場合には事前にクラス会議やケースカンファレンス会議等で必要が妥当か話し合い、本人や家族への十分な説明を行う。また、個別支援計画に記載し、行った場合の必要事項も記録し、本当にやむを得ないのか定期的に会議で見直して検討する。</p> <p>○ 家族支援として引き続き、個別懇談や月1回のクラス懇談、年4回の子育て講座、年3回の親子発達支援のプログラム、ペアレントトレーニングの勉強会、先輩母からの体験談、子どもの精神発達についてなど日常的に進めていく。 新しい取り組みとして、クラスごとの懇談だけではなく全体のクラス懇談を月1回行い、保護者同士の交流の機会を増やしていく。また、個別懇談では保護者の困り感を早期にキャッチして、解決の方向を見出す。</p>
--	--

【所管局の評価】	
総合評価	改善指導・指示事項
看護師の増員や自主事業など、手厚い事業を実施していると評価できる。また、利用者アンケートの要求水準を上回っていることは評価できる。	引き続き、利用者や家族のニーズに合わせた支援を続け、利用者処遇の向上に努めてもらいたい。 また、R6. 4の医療型児童発達支援センターと福祉型児童発達支援センターの一元化なども利用して、収支状況の改善に努め、運営の安定化を図ってほしい。